

1960 - 70 年代における少女文化の一展開としての For Ladies シリーズ

一 「寺山修司抒情シリーズ」と「あなたの詩集」を中心に一

久保陽子*

The *For Ladies Series* as a Stream of Girls' Culture in the 1960s and 1970s: A Study of the Interaction with Readers and Writers in the "*Shūji Terayama Lyric Series*" and "*Your Poetry Collection*".

KUBO Yoko*

This study will focus on the *For Ladies Series*, a series of works for girls written by Shūji Terayama. It will place it in the stream of girls' novels of the 1960s and 1970s. In "*Shūji Terayama Lyric Series*", Terayama's rhetoric is effectively used to accompany and empathize with the girl. In "*Your Poetry Collection*", which is composed of poems from readers, a survey of the works and selected reviews revealed that it is a place of mutual communication between readers and writers. The girls' poems influenced other girls' creation and creativity, and their works also influenced Terayama's lyrical works.

キーワード : For Ladies シリーズ, 寺山修司, 少女, 少女詩, 少女小説史, 抒情, 読者投稿

1. はじめに

For Ladies シリーズは、新書館から刊行された若い女性読者をターゲットにしたシリーズ本で、1965年から1981年まで確認できるだけで131冊が刊行されている¹。16年に渡るこのシリーズの人気先鞭をつけ、かつ創刊から絶えずこのシリーズに関わっていたのが寺山修司である。作・寺山修司、イラスト・宇野亜喜良というタグで刊行された第1冊目の『ひとりぼっちのあなたに』（1965年5月）がこのシリーズのイメージを決めたというが²、今、手元にある『ひとりぼっちのあなたに』を見ると1976年12月には実に110版を重ねており、その人気がうかがえる。

しかしながら、これらは文学の階級化において性別、年齢の点から二重に低められ、寺山研究においてもあまり着目されてこなかったといえる。このことは、一般的に少女の読みものである少女小説が長らく文学の埒外に置かれていたのと同様である。とはいえ、1967年に自身の劇団である天井棧敷を旗揚げし、国内外で本格的に演劇活動を展開していく中で、それと並行しながらも For Ladies シリーズに携わり続けたのであるならば、寺山の多岐に渡る芸術活動の中でのこれらの位置づけは決して小さいものではない。またこの For Ladies シリーズで獲得した女性ファンたちを集めてサロンを開催し、それを劇団設立資金にしており³、また For Ladies シリーズを入口に他の寺山作品の受容者へと移行していったファンもいたであろうから⁴、この For Ladies シリーズでの読者層との

*一般教養科

関わりも看過できない。

本稿では、女性読者に人気を博した For Ladies シリーズの「寺山修司抒情シリーズ」と「あなたの詩集」において、少女向けという枠組みにおける寺山と読者と、読者と読者の交流の様相を明らかにしたい。なおここで少女という言葉は、後述するように、少女小説と呼ばれるジャンルからの影響関係がみてとれるため、それと関連づけて使用しているが、実際の読者は、学齢期の女性である少女よりは年齢層が少し高く 10 代後半の女性であったと思われる⁵。今まで For Ladies シリーズについての研究としては、齊藤聖奈が「寺山修司抒情シリーズ」の前書きや語りの様式について、「①語り手の前景化／読者への呼びかけ、②物語の打ち消し」といった特徴を指摘している⁶。こうした研究を踏まえ、本稿では、まず「寺山修司抒情シリーズ」において、少女に向けていかなる作品が創作されているのか、少女に向けて書くことの特徴について考えてみたい。次に「あなたの詩集」において書き手である少女にいかなる作品を期待していたかを選評より分析し、また読者投稿詩集が読者共同体としての少女にとってどのような場になりえていたか、投稿作品からみていく。

このように少女向け作品の特徴を明らかにすることは、決してこのジャンル内のみに留まるものではない。如月小春は演劇作品に「挑発と抒情」⁷を見出しているように、メルヘンの要素やロマンチックな抒情性が、革新性やアングラ色と共存しているのが寺山作品の一つの魅力となっているといえる。For Ladies シリーズの 2 代目編集者であった白石征は、寺山の「創作の源泉は抒情」とし、「前衛的なものも、こういう少女を主題とし、あるいは対象として抒情的なものがその底にあるから長く生きつづけていける」と述べ、For Ladies シリーズ作品はもっと高く評価されてもいいと述べている⁸。このように、寺山作品の一つの特徴である抒情性と、少女向けの作品は決して無関係では

ないのだ。

2. For Ladies シリーズの成立

では、まず For Ladies シリーズについて、どのような文化的背景で誕生したのか、当時の少女の読みものの流れの中での位置付けを確認したい。なお For Ladies シリーズの成立背景や書誌情報については近代ナリコが『本と女の子 おもいで』の 1960 - 70 年代』（河出書房新社、2005 年）で当時の出版文化状況も含めて詳しく紹介しているので参照されたい。

For Ladies シリーズ創刊時の編集者である内藤三津子は、これを「オリジナルな企画」としながらも、その雰囲気作りに成功した自身の感性の起源を少女小説に見いだしている。少女小説を最後に読んだ世代だとし、「1960 年代にはそういった少女小説も貸本屋もなくなりつつあった。それでも女の子たちの気持ちの中にはやっぱり少女小説が読みたいという願望が確固として根付いていた」と述べている⁹。このように For Ladies シリーズは、少女小説集ではないものの、少女小説のモードを意識して創刊された。

少女小説は、明治時代までその歴史をさかのぼることができる¹⁰。1899 年の高等女学校令以降、次々と刊行された少女雑誌を舞台に少女小説が書かれたが、戦前より続く 2 大少女雑誌である『少女の友』（1908～1955 年）と『少女倶楽部』（1923 年～1962 年。1946 年に『少女クラブ』に改名）が 1960 年前後に廃刊になる。これに象徴されるように、1950 年代前半には貸本屋の普及によって大衆化しブームのピークを迎えた少女雑誌ならびに少女小説は、1960 年代に入り衰退していった。1966 年には『小説ジュニア』が創刊され、少女小説はジュニア小説と呼称を変えていくが、名称のみならず作品の内容も少女たちのニーズに応え変容していく。こうした少女小説／雑誌の過渡期に、For Ladies

シリーズは新たな少女たちの読みものとして創刊された。少女雑誌の流れを汲みつつ、しかしながら、「オリジナルな企画」として、雑誌ではなくソフトカバーの単行本であった。

また、少女雑誌が少女小説のみならず、詩、挿絵、広告、エッセイ、読者投稿欄などさまざまなコンテンツで紙面は構成されてように、For Ladies シリーズも、様々な趣向を凝らしたバラエティに富んだ作品集になっている。第1冊目の『ひとりぼっちのあなたに』の目次をみると、「ひどく短いまえがき」「自己紹介」「感傷的な四つの物語」「ポケットに入るくらいの小さな恋愛論」「幸福についての七つの詩」「町の散文詩 あなたが風船をとぼすとき」「古いレコードを聴きながら書いた詩物語」「読まなくてもいいあとがき」というように、物語、エッセイ、詩、散文詩、詩物語が並んでいる。さらにこのシリーズでは装幀・挿画を宇野亜喜良が担当し、随所に宇野のイラストが挿入されロマンチックな作品世界を彩っている。

また、さらに少女小説史をたどっていけば、嵯峨景子の少女小説史の整理によると、ジュニア小説は1960年代後半に人気を誇るも、「読者の目には古くさいものと映るようになった」ため1970年代前半にブームが終息していく。1970年代の終わりには「読者にとっての『教師』ではなく、読者と年齢が近いいわばお姉さん世代の作家として、同じ感覚を共有した若い女性作家たちが、ジュニア小説の登竜門である「小説ジュニア青春新人賞」から輩出され、新たな少女小説ブームを築いた。またジュニア小説の衰退の外部の理由として、いわゆる24年組と呼ばれる漫画家の台頭とそれによる漫画への人気の移行が指摘されている¹¹。

このように年長の男性作家の教育的な視点で書かれたものから、同世代の同性作家による共感しやすく親しみやすい内容へと移行していくが、そうした流れの中で、寺山が関わったFor Ladiesシリーズをみると、「寺山修司抒情シリーズ」が

1965年から1975年まで全8冊、次に読者である少女を書き手として迎え寺山が編集した「あなたの詩集」が1969年から1980年まで全15冊刊行されている。そこから伊東杏里や岸田理生が見出され、For Ladies シリーズでデビューもしている。さらに漫画ブームの火付け役となった萩尾望都と寺山がともに編者を担当した読者投稿による漫画集「あなたのファンタジー」が確認できるだけで1977年から1980年まで9冊刊行されている。

このように寺山が手がけたFor Ladies シリーズは少女小説史の流れと重なり合うように、そのシリーズの内容も変化している。少女の読むことへの欲望や流行を敏感に察知し、それを汲み取りながら企画内容を変容させた。またFor Ladies シリーズは、しばしば少女小説の流れを継承するコバルト・ブックスと並べて語られることから、少女小説とは違うジャンルはいえ、隣接していたことがわかる。とはいえ、白石が同じ1965年に創刊されたコバルト・ブックスと、For Ladies シリーズは「相容れないものだった」とし、前者は「学校とか家庭だとかの現実的な世界」を描き、後者を「孤独をみつめる内的想像力の世界にリアリティを求めていた」と述べている¹²。このように比較対象としての近さを持ちつつ、しかしながら少女の孤独や内面世界に向き合ったというFor Ladies シリーズの特徴とは、具体的にいかなるものだったのだろうか。

3. 「寺山修司抒情シリーズ」

「寺山修司抒情シリーズ」は、エッセイや詩や物語を中心として、往復書簡、戯曲、日記、写真、短歌、辞典などの形式も取り入れられ、一人の書き手とイラストレーターによるコンテンツでありながら、読者を飽きさせず読ませる工夫が施されている。また全8冊の目次から作品を概観してみれば、恋愛に関する言葉が散見される。ために章名と

作品名から網羅的に抽出してみると、「恋」(章名 4: 作品名 6) (*以下、章名: 作品名の数を示す)「愛」(4: 6)が多く、他にも「恋愛」(3: 2)「キス」(2: 5)「ロマンス」(1: 2)「好き」(0: 3)「ハート」(0: 2)といった言葉もみられる。少女小説においては、1960 年代には戦後の男女共学を背景として、今までタブーであった異性愛が描かれるようになったが¹³、こうした少女の関心である恋愛について、第 1 冊目『ひとりぼっちのあなたに』(新書館、1965 年)に「ポケットに入るくらいの小さな恋愛論」としてはやくも登場している。

この恋愛論の「もし、恋をしていたら」という項目では、まず人生を 65 年とし、結婚の平均年齢を 25 歳とし、恋が不貞となるそれ以降と、「十分に恋愛はできにくい」高校時代までを引くと、恋人になる得る期間は「たった 6 年しか許されていない」という現実的な数字を提示する。本田和子が少女のリボンに象徴される「ひらひら」なるものから少女の存在を読み解き、「束の間の夢」や「虚なるもの」としたように¹⁴、少女の時間はやがて母親になるまでの限られた儂い時間である。

恋愛論では、こうした限られた恋の時間であるからこそ、恋を謳歌するようすすめる。少年の読みものの物語の定型である「冒険」という言葉を用い、「恋を精神の冒険」とし、少女たちが恋愛において勇敢に、かつ情熱を持って自らの意志で行動することを説いていく。この恋愛論は「一、恋を、日常生活の中で糧とは考えるな。」「二、恋に遠慮は無駄である。」「三、恋は冒険である。合理的に考えてゆくと冒険のスリルは半減する。」「四、恋は二人にしが見えない世界を見ることだ。」と 4 つに要約されている。ここでは恋愛は単なる糧ではなく人生の中心に置かれ、また遠慮や合理性を排除し、情熱を持って二人の世界に没頭することが謳われている。このように、少女たちの恋愛への関心の高まりと寄り添うように、その恋愛への情熱や欲望を肯定するが、それだけでなく、先の試算で示された限定

的な恋の期間は若い女性読者の年齢と重なるだろうから、ひいては少女の存在そのものを中心化し称揚することにもなる。

こうした少女たちの立場に寄り添う姿勢は、「寺山修司抒情シリーズ」の人気の理由の一つであつたろうし、戦略的になされているといえる。恋愛論の別の項目「もし、キスをしたと思ったら」は、「第 1 課」から「第 6 課」というように「講義」の形式を持っている。しかしながらそれは「きわめて無責任な、思いつき講義」とされ、さらには「キスなどというのは論じるものではなくて体験するもの」であるから「この文章も、いわば読者諸姉へのラブレター」だという。講義という教師と生徒の構造を枠として設定しながらも、「ラブレター」という極めて個人的で親密な表現によって教育色を脱色している。

またタイトルを見れば「ポケットに入るくらいの小さな恋愛論」と「小さな」と付されている。こうした「短い」や「小さい/小さな」といった形容詞もシリーズを通して散見される。この小ささは可愛らしい少女のイメージと重ねあわされるものであろうが、別の役割もある。「小さな」と書くことで、取るに足らないといった意味や未熟や未完成といったイメージが付与される。文章をみれば「あり得るはずがないのです」¹⁵や「重要な真実なのです」¹⁶という断定的で強い語調が用いられている。その一方で、タイトルで初めから「小さな」と書くことで、作者が前面に出て強く主張することが巧妙に回避されている。であるから読者がより主体的に考えることの余地が残されているといえる。

このように少女の関心ごとに寄り添い、それを肯定した上で、教育色を排し親近感を与えるように創作されているものの、30 代の男性作家である寺山とそれよりも年下の女性読者という非対称は温存されており、ジュニア小説が辿ったように、今度は若い女性を書き手として迎えることになる。

4. 「あなたの詩集」

「あなたの詩集」は、編者を寺山が、アートディレクトを宇野が担当しているように「寺山修司抒情シリーズ」のイメージと形式を継承しながら、読者の投稿によるシリーズとなった。全 8 冊で終了した「寺山修司抒情シリーズ」のおよそ倍にあたる全 15 冊（全 16 巻）が刊行され、その人気がうかがえる。4 冊目と 5 冊目は「とてもたくさん『いい詩』が集まっ」¹⁷たため 2 冊に分けて刊行された。対して 14 冊と 15 冊は合併号として 1 冊にまとめられた。各巻の終わりには「予選を通った詩人とイラストレーター」の名前が列挙されており、1 冊目、2 冊目では 3 段組でそれぞれ 3 ページ、4 ページだった名前の羅列が、3 冊目より 5 段組になりページ数も 6 ページに渡っており、さらに 7 冊目からは 6 段組でフォントも小さくなるといったように、絶えず多くの投稿が寄せられていたことがわかる。

「あなたの詩集」と冠されたこのシリーズは、その題名の通り、ほとんどが詩の投稿であり、ときおり物語の投稿が見られる。投稿された作品は章ごとに編集され、章名は投稿詩からとったものと寺山が付けたものがあり、また各章には寺山の手による前書きが付されている。また「あとがき」には全体的な詩の評価や詩を書くことを激励する言葉が載せられている。イラストも読者のものが掲載され、大人たちの手を離れ、読者たちの手によって本が完成している印象を与えている。もちろん実際には、白石が証言するように寺山による手が加えられていたし¹⁸、選評が投稿者の創作を方向づける権威的な指針となることも否めない。

ところで、こうした詩の投稿とその編集は、「あなたの詩集」に先んじて既に行われていた。寺山は受験雑誌『高三コース』（1965 年 4 月～1971 年 9 月）と『高一コース』（1967 年 4 月～1969 年 3 月）の読書投稿の選者となり、そこで見出された詩を

『ハイティーン詩集』（三一書房、1968 年）として刊行している。時系列に沿って整理すれば、これらの選者を辞めた後に、For Ladies シリーズへと場を移したことになる。『高三コース』の選評について守安敏久は「反逆のエネルギーと心優しい抒情という相反するものが同居したところにその選考の特徴がある」¹⁹と述べているが、For Ladies シリーズはこの抒情の方へより重心が置かれていた。

とはいえ、中には同性愛の少年と死の物語を書いた伊東杏里「五月の糸杉」（『あなたの詩集 1 99 粒のなみだ』新書館、1969 年）や For Ladies シリーズには「めずらしい／恨みの一番娼館のかなしい唄」と紹介される死や血や殺人を扱った作品を集めた「少女のための殺人学入門」（『あなたの詩集 13 ジュリエットの数学』新書館、1978 年）のような作品群もみられる。しかしながら、全体的にみればそれらはむしろこれらは少数派であろう。だからこそ寺山の「あとがき」には、少女の詩にロマンチックな抒情にとどまらない大人びた感性を要求している。

少し欲を言えば発想がだんだん似てきたことです。もっといたずらっぽいもの、キュートなもの、一寸エロティックな少女らしさ、野生の小鹿のような奔放さ！さまざまなバラエティがほしかったということです。「あとがき」『あなたの詩集 2 半分愛して』新書館、1970 年)

いつも思うのだが、もっともっと大人っぽい詩がほしい。言葉の毒薬のような、快樂の美酒のような、耽溺の大鴉のような、エロスもほしいし吸血鬼も魔女もおよびなのです。「あとがき」『あなたの詩集 6 恋なき子』(新書館、1973 年)

このように大人っぽさや奔放さが求められているが、「エロティック」でありながらもそれは「一寸」であり、あくまで「少女らしさ」は必要だとさ

れている。この大人っぽさ／少女らしさは、このシリーズの選評を通して言及されており、どちらかが良いとされるものではなく、両者をあわせもつ作品が求められていたことがわかる。個々の投稿者に書かれた前書きからもそれはうかがえる。

出来栄は まだ物足りません すこしおさないところが残っていて／それが作品を必要以上に可愛くしてしまっているのです／でもアイデアもいいし この次がたのしみです
「田沢美登里の空想詩集 ミアナ」『あなたの詩集 7 恋するアリス』(新書館、1974 年)

ちょっと上手すぎて ちょっと知的すぎて／甘味料がたりないところもありますが /まづはお手並拝見といきましょう 「るしあん 木野まり子」『あなたの詩集 10 鏡の国のあなた』(新書館、1976 年)

このように作品のおさなさや必要以上の可愛さが残る作品の出来栄は物足りないとする一方で、上手すぎて知的すぎる作品に対しては「甘味料」が足りないと批評している。しかしここで着目したいのは、おさなさやあどけなさという言葉が用いられていても、作品を未熟なものとして低くみるのではなく、むしろそこに価値を見ていることである。

いい詩ではないかもしれない／でも「詩と真実」というのはどこか心に／のこるものだと思います「小詩集」『あなたの詩集 1 99 粒のなみだ』(新書館、1969 年)

たぶん ペンで書くというようになってから／水村さんはほんものの詩人になったのでしょう／でも 鉛筆で書いてた頃も／「詩人になる前」のかがやきがあったにちがいない「水村梨乃の

小詩集」『あなたの詩集 11 鉛筆のシンデレラ』(新書館、1976 年)

「いい詩」とはいえないと断りながらも「詩と真実」は心に残るとし、また鉛筆からペンへと作品が上達・成長したとしても、それ以前にあった「かがやき」を認めているように、作品の評価は巧拙にとどまるものではない。詩人である寺山が「文学的」な観点からみればたとえ劣るものであったとしても、詩に宿るあどけなさやおさなさにこそ、書き手である少女の偽りのない率直な心情や詩の調べがあり²⁰、そうした心にうったえる真情の発露に価値を認めているといえる。

こうして、少女であることと少女が書くことに価値を見だし、書く少女をはげまし続けたが、先の選評で「発想がだんだん似てきた」とあるように、作品はどことなく似ているものがみられる。「寺山修司抒情シリーズ」の詩から影響を受けていると考えられるが、そこから着想は得ているもののさらに創作として展開されている作品もある。

大山デブコと写真を撮った／とびきり大きな鷺鳥と二重唱した／ガリガリ博士と体重をはかり／びっこの少女とプールで泳いだ／いつでも／ぼくの方が一寸ばかり／かっこよかった／ぼくは桜んぼを食べながら／プールサイドで／哲学した／かなしみというしみは どんなしみ？ 寺山修司「しみのあるラブソデー」『愛さないの愛せないの』(新書館、1968 年)

かなしみという「しみ」は／大ききなんて決まってなくて／その上 無色透明です／かなしみという「しみ」は／「なみだ」という名の洗剤で／ほとんど洗い落とせます／そして／大きすぎる 深すぎる／かなしみのために／クリーニング店「海」があります／／あたしのかなしみを分析して得た解答^{こたえ}です 早坂啓子「解

答-かなしみという「しみ」はどんなしみ?という設問に-『あなたの詩集 3 星みがき』(新書館、1971 年)

寺山の詩の末尾にある質問「かなしみというしみは どんなしみ?」に答える「解答」として、詩が書き継がれている。寺山の詩においては、かなしみという心情のあらわれる瞬間を描出し、またその心情の苦さそのものをよんでいるが、早坂の詩はその先であるところの、かなしみという心情との付き合い方が書かれている。

また投稿詩の中には、他の投稿詩の影響を受けたものがある。「あなたの詩集」では、個人の詩が寄せ集められて掲載された章、3~7 人の数人の詩が掲載された章、1 人の投稿者による数篇の詩が掲載された章と 3 つに大別できる。その中で、1 人の作品が取り上げられ、その名前が冠された章は時にカラー紙が用いられるなどし、そのインパクトは大きく、そこに付された選評による投稿者への期待や評価の高さも伺い知れる。であるから、「横尾弘子(第 3 集)サンのエーキョーをうんとこサ受けてかいた」²¹というように、先行する作品から着想を得て書かれた作品が創作されている。その一例が以下の引用である。

(前略)「かもめになるにはどうすればいいの?」と尋ねた。美人で着物を着た易者さんは、待っていたかのように、にこっと笑って、「メモカメモカって、いいなさい」って教えてくれるのでした。(後略)小川薫「メモカメモカ」『あなたの詩集 2 半分愛して』新書館、1970 年)

メモカメモカと／書いてみよう／だれかが考えた おまじないだけど／メモカメモカと／書いてみよう／ヒョットしたら ホントに／カモメに／なれるかもしれない

岩田礼美「おまじない」『あなたの詩集 3 星み

がき』(新書館、1971 年)

このように他作品から影響を受けていることを明言しながら、その設定を借りて創作されている。そこには共通の読みものを共通の知識として媒介し、繋がり合う読者たちのネットワークが生じており、現在の同人誌などの二次創作とその類縁を見出せるかもしれない。また少女雑誌『少女倶楽部』で少女詩の選評をしていた水谷まさるの『少女詩の作り方』によれば、まずは真似ることが創作の第一歩だとしている。

いい詩を多く読むことは、ちょうど眼鏡を借りるようなものです。この眼鏡をかけて、詩の世界を見せて貰ったのです。だから、読んだ詩が頭に入っている間は、やはり眼鏡をかけているわけです。だから、詩を作ろうとすれば、いきおいその眼鏡を通して見たことを書くわけですから、模倣をすることになるのは無理ありません。²²

このように多くの良い詩を読み、その模倣から出発し、それができたら他人から借りていた眼鏡をはずして批評的にみることで、創作ができるという。であるから、少女たちが先行する「寺山修司抒情シリーズ」や「あなたの詩集」の作品を参照することは、創作において歩むべき最初の道であり、「あなたの詩集」はそうした書くことへの一歩がであったといえる。

そうした中で何度も取り上げられる投稿の常連や「期待の新人」として名前が挙がる書き手もいる。この中で鈴木杏里と岸田理生は作家としてデビューするが、こうした同世代の少女の成功は、投稿者たちの励みになったことは想像に難くない。結果的にこの 2 人に続いて For Ladies シリーズからデビューした作家はいなかった。とはいえ、少女たちはデビューの道を見据えながら、また巻の終わり

に掲載されている予選通過者一覧にお馴染みの顔ぶれを見出し、切磋琢磨したであろうことは想像できよう。そして「予選を通過した詩人」(傍点引用者)として名を連ねる喜びもあったはずだ。

また投稿作品集とはいえ、「選評」という形で作品が評価されるわけではない。各章に付された寺山の言葉は、作品の評価が書かれることもあるが、章のテーマに合わせた自身の作品を挿入したり、作品世界の導入としての前書きであったり、投稿詩の作者への呼びかけであったりと、選者と投稿者の上下関係が極力排され気軽なものになっている。

こうした寺山の言葉により、書くことの敷居を下げ、少女たちに投稿することや書くことを促し続けた。加えて書き手である少女たちは、膨大な先行する手本を参照し、投稿者一覧の中に読者であり作者である同士を見出しながら、また自身の名前がどのような形で掲載されるかという動機付けのもと、個々の内面をみつめ筆をとった。そうした書くことのきっかけとなっていたのが「あなたの詩集」という場であり、そこでは読むことと書くことの距離はそれほど遠くない。

5. 『寺山修司少女詩集』

For Ladies シリーズで発表された寺山の詩は、後に少女詩と銘打たれた『寺山修司少女詩集』(角川文庫、1981 年)に所収された。このほとんどは「寺山修司抒情詩シリーズ」に掲載された作品で、また「あなたの詩集」の前書きにおいた自身の詩も収録されている。それだけではなく、少女たちの投稿詩を念頭において、その紹介文や章の導入として書かれた前書きも一作品として所収されているのだ。

「あ」は「a」です/aは ひとりぼっちの数詞です/でも 「あ」は「あなた」のあでもあり

ます/「あい」のあ でもあります/「作者のよこたあけみ」のあ でもあり/「あくま」のあ でもあります/「あ」の謎をどうとしたら/100 人のシャーロック・ホームズ探偵を/集めるよりも/一篇の詩をよむことを/おすすすめします/これはそんな詩集です「小詩集『あ』『あなたの詩集 5 眠るのがこわい』(新書館、1972 年)

これは「ゆめゆめゆめゆめ あああ/いろいろないろいろな あああ/あおあおあお あああ(後略)」から始まる横田明美の「あああ N04」が掲載されている章に付された前書きである。なお同章には「あああ N08」も掲載されており、一連の作品集だったことがわかる。「あああ N04」では上段に「ゆめ」「いろ」「あお」「うみ」「はる」「いま」「ひと」「こい」「よる」「とき」という 2 文字の言葉が 4 回繰り返され、下段に「あああ」という「あ」が 3 回繰り返されている。偶数/奇数、複数/単数、意味/無意味で構成されており、上下に分けられた視覚的な効果も用いながら「あああ」という文字の差異性が引き立てられている。この「あああ N04」から「あ」を「ひとりぼっちの数詞」としてその孤立性を読み取って書かれたのが、寺山の前書きである。「『作者のよこたあけみ』のあ でもあり」の部分と末尾「これはそんな詩集です」を削除し、『寺山修司少女詩集』では「小詩集『あ』」という作品として掲載されている。

また、この詩集の中で一段と目を引く章が「ぼくが男の子だった頃」である。甘美で抒情的な少女詩集の中で、「飛行機」「にぎりこぶし」「祖国」「戦争」「財産目録」「酒場」といった他の章ではあまり見られない言葉を含む詩が集められ、詩集の中で転調の効果がある。このアイデアは「あなたの詩集」によるものであろう。「あなたの詩集」は少女向けとはいうものの、投稿者の中には男性と思われる名前も見られる。ペンネームである可能性もある

が、とはいえ毎号男性の投稿者も一定数いることがわかる。「悪漢たちはロバに乗って」『あなたの詩集 5 眠るのがこわい』（新書館、1972 年）は、そうした少年たちの詩で構成される章である。この章の前書きでは「女の子の詩集に仮装してまぎれこんできた」投稿者の作品を「なかなか くやしくなるような詩ばかりです」と書くが、これが自身の詩へ向けた前書き（作品？）として所収されてもいる。

確かに、『ハイティーン詩集』が演劇『書を捨てよ、街へ出よう』の舞台にのせられたように、それらの若者の詩をそのまま使用するといった明確で直接的な引用関係はない。しかしながら、投稿詩から着想をして前書きが書かれ、それが後に作品として所収されたことは、少女（年）たちの詩が寺山の創作にも影響を与えたことのひとつの証左となる。

また予選を通過した投稿者の名前を眺めれば、気が遠くなるほどの数の少女たちの作品を根気よく読んだことがわかるし、それだけの少女たちが自分を見つめ、また書くことのきっかけとなっていたともいえる。足掛け 15 年という長い期間に渡り読む／書く少女と向き合っていたことは、寺山のみならず少女たちにとっても創作を通じた交流の場となり得ていたし、そのこと自体に価値をみたい。

『寺山修司少女詩集』は、2020 年に改版としても 21 刷を数えているが、絶版になった寺山の著作も多い中、現在においても流通し手に入りやすい作品集である。また 2018 年に開催された「寺山修司展 ひとりぼっちのあなたに」（神奈川近代文学館、2018 年 9 月 29 日～11 月 25 日）では、副題に For Ladies シリーズの第 1 冊目の題名がとられた。少女の内面に寄り添った For Ladies シリーズの仕事が寺山の代名詞として流布しつつあるとしたら、現代においても読者の心をつかむこれらの作品群を改めて見直す必要があるのではなかろうか。

付記

・旧漢字は新漢字に、旧仮名遣いは現代仮名遣いに改めた。

・作品における改行は「／」であらわした。

・現在における人権擁護の見地からして不適切と思われる語句や表現を、作品のオリジナリティを尊重しそのまま引用しているが、差別的な意図がないことを断っておく。

なお、本研究は JSPS 科研費 JP20K12913 の助成を受けた研究の成果の一部である。

6. 注

(1) For Ladies シリーズについては、近代ナリコ『本と女の子おもいでの 1960-70 年代』（河出書房新社、2005 年）を参照されたい。

(2) 創刊時の編集者であった内藤三津子は「私の感性とぴったり合った著者の寺山修司と表紙の宇野亜喜良によって、『フォア・レディーズ』のきれいなイメージは固まったと考えています」と述べている。『薔薇十字社とその軌跡—出版人に聞く⑩』（論創社、2013 年）p15

(3) 九條今日子によると「その頃、寺山は学習雑誌『高三コース』の詩、短歌、俳句、短文の選者をしていたので、常連の投稿者とそのほかのファンを入れると、案内状も相当の枚数になった」という。九條今日子『素顔の寺山修司 不思議な国のムッシュウ』（主婦と生活社、1985 年）p165。また白石征は「読者の愛読者カードをお貸しして、それで寺山さんから案内状を送ったんですよね。そうしたらずいぶん人が集まったらしい」と述べている。注 1 の近代ナリコ『本と女の子おもいで 1960-70 年代』の中の白石征のインタビューからの引用。p71

(4) 高取英は「少女詩集の読者の何割かは、他の寺山修司の短歌や演劇や映画の世界に踏み込んでい

った」とし「メルヘン調の甘い砂糖菓子風の詩やエッセイ」は「寺山修司にとっては一つの戦略だった」とする。高取英『寺山修司論—創造の魔神』（思潮社、1992年）p173

(5) 実際の読者の年齢層については、近代ナリコは「ティーンズ小説の隆盛の源となった集英社のコバルト・ブックスよりはお姉さん向け、といったところ」と述べている。注1に同じ。p44。また For Ladies シリーズは「大学の生協でも売っていた」という。小田光雄の内藤三津子へのインタビューでの発言。注2に同じ。p14

(6) 齋藤聖奈「フォアレディーズシリーズにおける寺山修司の様式」『弘前大学国語国文学』（2016年3月）

(7) 如月小春「挑発と抒情」『寺山修司メルヘン全集 8 人魚姫・裸の王様』（マガジンハウス、1994年）で「ちょっと気恥ずかしくなるようなセンチメンタリズムも、寺山修司の特色のひとつ」としている。

(8) 白石征のインタビューからの引用。注1に同じ。p76-77

(9) 注1に同じ。p15

(10) 少女小説史については「少女小説の出発と変遷」岩淵宏子・菅聡子・久米依子・長谷川啓編『少女小説事典』（東京堂出版、2015年）を参照した。

(11) 嵯峨景子『コバルト文庫で辿る少女小説変遷史』（彩流社、2016年）「第1章『小説ジュニア』から『Cobalt』へ」を参照・引用した。

(12) 白石征のインタビューからの引用。注1に同じ。p71

(13) 嵯峨景子によれば「少女小説では異性愛を取り上げるのはタブーで、そのかわりにエスをはじめとする少女同士の親密な関係」（p15）が描かれていたが、戦後の男女共学を背景に1950年代から60年代にかけて、「戦後の世相を反映して男女交際を描いた小説が増加し」（p16）たという。注11に同じ。

(14) 本田和子『異文化としての子ども』（紀伊國屋

書店、1982年→筑摩書房、1992年）p182

(15) 「ポケットに入るくらいの小さな恋愛論」『ひとりぼっちのあなたに』（新書館、1965年）p93

(16) 注15に同じ。p94

(17) 寺山修司「あとがき」『あなたの詩集4 舞踏会の手帖』（新書館、1972年）

(18) 白石によれば「よくないところは削除して、たいてい鉛筆で最後の二行くらいを書き足したり、前後を入れ替えたり。あとはタイトルをつけ直したり」したという。注1に同じ。P69

(19) 守安敏久『メディア横断芸術論』（国書刊行会、2011年）p170

(20) 少女雑誌『少女倶楽部』で少女詩の選評をしていた水谷まさるは「少女たちには特殊な心の生活がある」と述べ、そこに生じる「特有の気持」に「大そう興味をひかれ」たと述べている。『少女詩の作り方』（香蘭社、1922年）p4

(21) 志由紀カオル「悲しみの終わるとき」『あなたの詩集5 眠るのがこわい』（新書館、1972年）

(22) 注20に同じ。p159